

H 県における男性養護教諭の 志望動機に関する一考察

杉原真実¹⁾・中村雅子²⁾

1) 福山平成大学大学院 スポーツ健康科学研究科

2) 福山平成大学 福祉健康学部

【要旨】

日本学校保健会(2012)では、子どもを取り巻く生活環境の急激な変化を遂げ、子ども達の健康課題は複雑化・多様化していると述べている。このような現状から、竹田ら(2001)は学校現場で一人ひとりにきめ細かな対応をするためには、養護教諭1人では困難な状況であることを指摘している。また、多様化する子どものニーズに対しては、男性・女性両方の視点を活かして対応することが必要であると言及している(津村ら, 2010; 中村, 2016)。現在、文部科学省の学校基本調査(2019)によると男性の養護教諭(以下、「男性養護教諭」と示す)は全国で54名であり、養護教諭全体の0.2%という希少な存在であることが明らかとなっている。しかし、男性養護教諭に関する研究は極めて少ない。このことから、職業マイノリティとされる男性養護教諭の志望動機について明らかにし、今後の男性養護教諭の必要性について考察することを目的とした。具体的には、H県の男性養護教諭3名を対象に、半構造化インタビュー調査を実施した。結果、「周囲からの影響を受けた」「『教員』という職業に対しての憧れ」「自己の性格特性を分析し、養護教諭に適していると感じた」という職業マイノリティを感じさせない結果が多数見られた。少数ではあるが、「先駆者として頑張りたい」といった、男性だからこそ動機も見られた。

これらのことから、考察として、教育の質の向上のためには、性別を問わずに教育をしていくことが重要であると考えた。今後は、養護教諭が男性である強みや困難点、また困難をどのように解決しているのかについて明らかにすることが求められると考える。

KEY WORDS：男性養護教諭，志望動機，複数配置

Ⅰ. はじめに

近年我が国において、日本学校保健会（2012）は、子どもを取り巻く生活環境の急激な変化を遂げ、子ども達の健康課題が複雑化・多様化していることを問題視している。このような現状から、竹田ら（2001）は、学校現場で一人ひとりにきめ細かな対応をするためには、養護教諭1人では困難な状況であることを指摘している。文部科学省（1993）により施行された「第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画」と「第5次公立高等学校学級編成及び教職員配置改善計画」により、初めて養護教諭の複数配置に関する国の基準が明確となった。堀内（1997）は、中規模程度の学校においても養護教諭の複数配置が希望されていると述べている。そして、2001年度から「第7次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画」と「第6次公立高等学校学級編成及び教職員配置改善計画」により、小学校は児童数851人以上、中学校・高等学校は生徒数801人以上、特殊教育諸学校では児童生徒数61人以上の学校で複数配置が明確に示された。

次いで、津村ら（2010）は、「養護教諭は『学校看護婦』と呼ばれていた時代から、女性の仕事という意識が定着しており、現職の養護教諭、養護教諭を志望する学生も女性が非常に多いのが現状である」と述べている。多様化する子どものニーズに対しては、男性・女性両方の視点を活かして対応することが必要であると言及している（津村ら、2010；中村、2016）。

現在、文部科学省の学校基本調査（2019）によると男性の養護教諭（以下、「男性養護教諭」と示す）は、全国で54名であり、養護教諭全体の0.2%という希少な存在であることが明らかとなっている。中村ら（2016）の男性養護教諭に関する文献調査データから、男性養護教諭に対する「メリット」と解釈される記述だけでなく、「デメリット」と解釈させる記述も少なからずあることが明らかになっていた。「デメリット」として解釈された内容としては、『社会的に認知されていない』、『養護教諭には母性的な役割がある』、また『性的な誤解』や、『女子への対応に対する抵抗感』が述べられていた。一方「メリット」として解釈された内容として、『性別は全く関係ない』、『男子への対応に有効』、『父性が必要とされ求められている』、『資質向上のためには男性が必要』等が述べられていた。

以上のことから、児童生徒一人ひとりにきめ細かな対応を実現するため、学校現場に積極的に養護教諭を複数

配置することが望ましいと捉えることができる。さらに、多様化する子ども達の課題に対応するためには、女性だけの視点だけではなく、男性の養護教諭の視点を生かした保健室経営が求められると考えることができる。また、男性養護教諭の進出の遅れの背景には、歴史的背景や、「デメリット」として捉えられるマイナスイメージが関係していることが考えられるが、今後、教育の質の向上のためには、性を問わずに教育をしていくことが重要であると考えられる。そして、男性養護教諭に関する研究は極めて少ない。このことから、本研究において、職業マイノリティとされる男性養護教諭に対するアプローチを試みた。

Ⅱ. 研究目的

H県の男性養護教諭の志望動機について明らかにし、今後の男性養護教諭の必要性について考察する。

Ⅲ. 研究方法

1. 対象及び方法

H県の特別支援学校で勤務している男性養護教諭3名を対象に実施した。対象となった男性養護教諭の概要を表1に示す。半構造化インタビューを実施し、回顧データを収集した。

表1 研究協力者の属性

	年齢	卒業大学	採用までの経歴
A	33	総合大学	一般企業 5 年 臨時養護教諭 2 年
B	36	医療福祉大学	中学校臨時保健 体育 1 年
C	40	体育系大学	非常勤講師 臨時保健体育科 教員、 小学校臨時養護 教諭 4 年

2. 調査内容

インタビュー内容は、以下の5項目を実施した。

①「なぜ養護教諭になろうと思ったのか」②「男性で養

護教諭として働く前の不安な内容は何だったか」

③「養護教諭が男性であることの強みだと思うことは何か」

④「養護教諭が男性であることの困難点は何か」

⑤「今後男性養護教諭にどんなことが求められていると思うか、また今後の男性養護教諭の方向性に対する考え等」

本研究においては、志望動機に焦点を置き、研究を進めた。

3. 調査時期

平成30年8月6日～8月22日に実施した。

4. 調査場所

Aへのインタビューは、FH大学研究室で実施した。また、B及びCに対するインタビューは、研究協力者が勤務する学校の教室で実施した。

5. 分析方法

質問内容は、研究協力者の同意を得てICレコーダーに録音した。録音した質問内容を逐語録におこし、M-GTAを参考に意味のある一文節を記録単位として抽出した。

抽出した記録単位は、帰納的に分類してコード化し、意味内容の類似性に従って分類し、カテゴリー化した。カテゴリーは抽出度の低い順に、サブカテゴリー、カテゴリーと整理して主題をつけた。

分析過程では、分析結果と記述の内容との照合を適宜

行い、養護教諭を志望する筆者と養護教育学分野の研究職の2人で検討を重ねた。

6. 倫理的配慮

調査実施前には、文書を用いて本研究の目的、録音の目的、録音した媒体の管理方法、個人が特定される内容は公表しないこと、研究以外の目的で使用しないこと、調査中にも拒否の権利があることを説明した上で、文書にて同意を得た。

IV. 結果と考察

32の記録単位から22のコードを生成し、16のサブカテゴリー、6のカテゴリーに分類された。以下のコード『』を、サブカテゴリー [] を、カテゴリーを【】と示す。

志望動機としての6つのカテゴリー内容は、【周囲からの影響を受けた】、【養護教諭の職務の特質に魅力を感じた】、【自己の性格を分析して養護教諭に適していると感じた】、【「教員」という職業に対する憧れ】、【大学で保健体育科と養護教諭の免許取得が可能だった】、【男性であることを活かしたい】であった。

1) 【周囲からの影響を受けた】

6のコードを生成し、3のサブカテゴリーに分類された。サブカテゴリーは[学生時代の魅力的な養護教諭との出会い]、[家族が教員であった]、[男性養護教諭の採用情報に勇気付けられた]であった（表2）。養護教諭に

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
周囲からの影響を受けた	学生時代の魅力的な養護教諭との出会い	興味を持ったのは小学校の時、養護教諭の働きを間近で見た。
	家族が教員であった	高校時代に保健室に行く機会があり、養護教諭という仕事を知った。
	男性養護教諭の採用情報に勇気付けられた	父親が学校の先生をしている。
		男性養護教諭が採用されたというのを聞いて自分も頑張ろうと思った

表2 【周囲からの影響を受けた】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
養護教諭の職務に魅力を感じた	悩みなどを抱える子ども達と関わる時間が取りやすい	授業・学級経営がないという特質から、個々の子どもと向き合える時間が取りやすい
	全校生徒を対象	全校の子ども一人一人に声をかけられる

表3 【養護教諭の職務に魅力を感じた】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
自己の性格特性を 分析し、養護教諭に 適していると 感じた	性格の特性が向いている	子ども達の細かい変化に気づける
		幅広い友好関係を築ける
	子どもの気持ちを理解できる	子どもの気持ちを自分なら少しは理解できる気がした

表4【自己の性格特性を分析し、養護教諭に適していると感じた】

限らず、志望動機の中にその職業に関わる人物との出会いにより、憧れを抱くというケースは多いのではないかと考える。しかし、養護教諭は、授業などで子ども達の主な活動の場である教室を出入りする機会も少なく、保健室に来室する児童生徒に対応することがほとんどであるため、児童生徒の方から保健室に来室する事などがない限り、学校の中で養護教諭と関わる機会は少ないのではないかと考える。さらに、日本学校保健学会（2016）による1日平均の保健室利用者数のデータから性別に着目すると、全ての学校種で女子が男子より多いことが分かった。高等学校においては女子の来室者が男子の約1.5倍である。

養護教諭と関わる機会が女子に比べると男子は少ない

ことから、養護教諭を志望する男性が少ないことに関係しているのではないかと考える。このことから、学生時代に養護教諭と関わる機会が増えたと、男子児童生徒でも養護教諭志望者は増えていくのではないかと考えた。

そのためには、養護教諭が、活動の場を保健室に限定せず、保健指導や保健学習での授業に積極的に参加するなど、より多くの児童生徒と関わる機会を、養護教諭の方から作っていく必要があるのではないかと考える。

2) 【養護教諭の職務の特質に魅力を感じた】

3のコードを生成し、2のサブカテゴリーに分類された。サブカテゴリーは[悩みなどを抱える子ども達と関わる時間が取りやすい]、[全校生徒を対象]、であった

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
「教員」という職業に 対しての憧れ	学校という場所が好きだったため学校で 仕事がしたい	学生時代に学校が楽しく、学校という場所が 好きだった
		大人になっても学校で仕事がしたい
	学校の先生になりたい	学校の先生になりたかった
	養護教諭も教員である	保健体育の教員でも養護教諭でもこだわりは なかった
		養護教諭も教員に変わりない

表5【「教員」という職業に対しての憧れ】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
大学で保健体育科と 養護教諭の免許取得が 可能だった	保健体育科・養護教諭の免許両方取得が 可能だったため、取得した	養護教諭でやっていけるなという 自信があった
		初めは免許だけ取っておこうくらいの 気持ちだった
	保健体育科志望だったが、養護教諭の免許取得が 可能だったため、両方資格を取得した	最初は保健体育の方で行こうと思っていた

表6【大学で保健体育科と養護教諭の免許取得が可能であった】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
男性であることを 活かしたい	先駆者として頑張りたい	人がやらないことをやってみたい
		なかなか男の人がいない中で頑張りたい
	正義の味方のような存在になりたい	学校の中で弱いものを見つけたら正義の味方みたいになりたい

表7【男性であることを活かしたい】

(表3)．これは、保健体育科における臨時的任用教職員の経験した上で、生徒一人ひとりと深く関わりを持ち、授業や学級経営がある教科教員よりも比較的向き合う時間が取れる養護教諭の職務の特質に魅力を感じたことが動機に繋がっていることが考えられる。

3) 【自己の性格特性を分析し、養護教諭に適していると感じた】

6のコードを生成し、3のサブカテゴリーに分類された。サブカテゴリーは[養護教諭として自信があった]、[性格の特性が向いていると思った]、[子どもの気持ちを理解できる]であった。『養護教諭として自信があった』では、『養護教諭でやっていけるなという自信があった』というコードを生成した。

『性格の特性が向いている』では、『子ども達の細かい変化に気づける』『幅広い友好関係を気づける』というコードを生成した。『子どもの気持ちを理解できる』では、『子どもの気持ちを自分なら少しは理解できる気がした』というコードを生成した(表4)。これらのことから、細かい変化に気付く事のできる観察力は、養護教諭にとって児童生徒の問題の早期発見・早期解決において重要な資質だと考える。自己の性格分析が適切に行われているからこそ、養護教諭として働き続けられるのだと考えられる。

4) 【「教員」という職業に対しての憧れ】

8のコードを生成し、3のサブカテゴリーに分類された。サブカテゴリーは[学校という場所が好きだったため学校で仕事がしたい]、[学校の先生になりたい]、[養護教諭も教員である]であった(表5)。自らの学生時代が充実したものであったことから、第一に教員への憧れが強くあり、教科の教員であろうが、養護教諭であろうがこだわりはなく、「とにかく教員という仕事がしたい。」という気持ちであったことが強く感じられた。子ども達が学校生活を楽しいと思える環境を、学校の教職

員、関係機関、地域全体で作っていくことにより、教員志望者の増加に並行して男性養護教諭志望者が増加することにつながるのではないかと考えられる。

5) 【大学で保健体育科と養護教諭の免許取得が可能であった】

3のコードを生成し、2のサブカテゴリーに分類された。サブカテゴリーは[保健体育科・養護教諭の免許両方取得可能だったため取得した]、[保健体育科志望であったが養護教諭の免許取得が可能であったため、両方資格を取得した]であった。まず、『保健体育科・養護教諭の免許両方取得可能だったため取得した』では、『免許だけ取っておこうくらいの気持ちだった』『せっかくどちらも取れるなら両方取った』というコードを生成した。そして、『保健体育科志望であったが養護教諭の免許取得が可能であったため、両方資格を取得した』では、『最初は保健体育の方で行こうと思っていた』というコードを生成した(表6)。本研究の研究協力者3名の男性養護教諭は、3名とも保健体育科の教員免許と養護教諭の免許を両方取得しており、大学で両方取得可能であったことが共通していることがわかる。3名の研究対象者の免許取得に対する積極的な姿勢や、男性だから、女性だからといったバイアスに縛られない考え方が今後必要となってくるのではないかと考える。

6) 【男性であることを活かしたい】

3のコードを生成し、2のサブカテゴリーに分類した。サブカテゴリーは[先駆者として頑張りたい]、[正義の味方のような存在になりたい]であった。まず、『先駆者として頑張りたい』では、『人がやらないことをやってみたい』『なかなか男の人がいない中で頑張りたい』というコードを生成した。

そして、『正義の味方のような存在になりたい』では、『学校で弱いものを見つけたら正義の味方みたいになりたい』というコードを生成した(表7)。

上記に示してきたことから、本研究の対象者である男性養護教諭は、男性だから養護教諭を諦めることなく、むしろ男性という強みを活かしたいという前向きな考えを持って養護教諭を志望しているのではないかと考えた。今後、養護教諭は性別を問わず、自らの強みに自信を持ち、前向きな自己研鑽に努める必要があると考える。

V. 成果と課題

本研究では、H県の男性養護教諭の志望動機について明らかにし、今後の男性養護教諭の必要性について考察することを目的とした。

成果として、3名の男性養護教諭の志望動機について明らかになり、職業マイノリティを感じさせない結果が多数見られた。また、職業マイノリティであることを理解した上での前向きな結果も見受けられた。このような結果から、今後養護教諭は性別を問わず、それぞれの個性や強みに自信を持って前向きな自己研鑽に努める必要があると考察することができた。また、結果の中で、【周囲からの影響を受けた】の[学生時代の魅力的な養護教諭との出会い]により志望していることから、養護教諭が、活動の場を保健室に限定せず、保健指導や保健学習等の授業に積極的に参加するなど、より多くの児童生徒と関わる機会を、養護教諭から作っていく必要があるのではないかと考察した。

本研究を通して男性養護教諭の必要性を考察するとともに、養護教諭全体の在り方についても考察することができた。

本研究の課題として、3点を挙げる。まず1つ目に、本研究の研究協力者であるH県の男性養護教諭は、3名とも特別支援学校の複数配置校での勤務であった。今後は単数で配置されている男性養護教諭や、特別支援学校以外の校種で勤務する男性養護教諭にも調査していきたい。2つ目に、今回のインタビュー調査で、5項目の内容を実施した。本研究では志望動機に焦点を当てたが、他の4項目についても今後研究を進めていきたい。3つ目に、データ分析の方法・手順により、妥当性・信頼性が不十分であったのではないかと考えた。そのため、今後は妥当性に関しては、分析結果を調査協力者に郵送し、調査協力者からのカテゴリーに対する意見・感想等を記述したものを返送してもらい、妥当性を検証したい。また、信頼性に関しては、養護教諭を志望する筆者と、養護教諭である大学院生及び養護教育学分野の研究

職の3人で行いたい。

VI. まとめ

H県に勤務する3名の男性養護教諭を対象に、半構造化インタビュー調査を実施した。そして、3名のインタビュー内容を、養護教諭を志望する著者と養護教育学分野の研究職2名で分析を行った。そして、本研究の結果から、H県の男性養護教諭3名の志望動機を明らかにし、今後の男性養護教諭の必要性について考察した。今後は、より多くの研究協力者から、男性養護教諭の職務上の困難点及び解決策等について調査を進めていきたい。

VII. 引用参考文献

- ①日本学校保健会（2012）：学校保健の課題とその対応-養護教諭の職務等に関する調査結果から-p1-2
- ②竹田由美子他(2001)：時代のニーズに応じた養護教諭の適正配置（1）-先行文献から-，日本養護教諭教育学会誌，Vol.4，No.1，P.38-49
- ③竹田由美子他（2001）：時代のニーズに応じた養護教諭の適正配置(1)-先行文献から-，日本養護教諭教育学会誌，Vol.4，No.1P 50-61
- ④文部科学省（1993）：「第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画」「第5次公立高等学校学級編成及び教職員配置改善計画」
- ⑤堀内（1997）：養護教諭の複数配置に関する調査研究-大規模校児童生徒の保健室利用および養護教諭の複数配置に関する学校長の意見-
- ⑥文部科学省（2010）：「第7次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画」「第6次公立高等学校学級編成及び教職員配置改善計画」
- ⑦津村直子他（2010）：男性養護教諭に対する意識調査：男性養護教諭勤務校の生徒の意識p145-155
- ⑧文部科学省学校基本調査（2019）：令和元年度速報
- ⑨中村 千景（2016）：男性養護教諭に関する研究動向 p73-79
- ⑩日本学校保健学会（2016）：平成28年度保健室利用状況に関する調査報告書

One discussion about the desired motive of the male school nurse in the H prefecture

Mami SUGIHARA¹⁾, Masako NAKAMURA²⁾

- 1) Fukuyama Heisei University College of Welfare and Health
- 2) Fukuyama Heisei University Graduate School, Department of Sport Health Sciences

Abstract

In Japanese Society of School Health (2012), We accomplish a sudden change of the living environment to surround children and state that the healthy problem of children makes it complexity, diverseness.

Because Takeda et al. (2001) gives a smooth response to each one in school settings, We point out that it is the difficult situation with one school nurse. Also, for the needs of children diversifying, When it is necessary we make use of men, female both viewpoints, and to cope, we mention it (Tsumura et al., 2010, Nakamura, 2016). According to school in Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology basics investigation (2019), a school nurse (we show it with "a male school nurse" as follows) of men is 54 It is found that it is the rare presence called 0.2% of whole school nurse. However, there are extremely few studies on male school nurse. Therefore, we determine it about the desired motive of a male school nurse considered to be occupation minority, It was intended to consider the need of the future male school nurse. Specifically, we interviewed it and, in three male school nurses of the H prefecture. Results not to make results, the "admiration occupation minority "that we felt when we analyzed a character trait of the self and were suitable for a school nurse" for the occupation" called "the teacher" that "came under an influence from the circumference" felt were found a lot. It was few, but the motive only by men "to want to do their best as a pioneer" was found.

From these things, As consideration for the improvement of the quality of the education, We thought that it was important that we educated you without asking sex. We will think that it is demanded strength and difficulty point, that we determine how you solve difficulty that a school nurse is men in future.

KEY WORDS : The male school nurse, Desired motive, Multiple placement